



Sun Auto Service Request for Systems

ホワイトペーパー

本書では、Sun 製品で障害イベントリモート測定を使用してサービス要求を開始することでサポートサービスプロセスを自動化する Sun™ Auto Service Request (ASR) の技術的な側面について説明しています。

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

日付 : 2009 年 10 月
バージョン 2.4

パート番号 : Ja 821-0885-10 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle Santa Clara, CA 95054 U.S.A. ©2009 Sun Microsystems, Inc.

©2009 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle Santa Clara, CA 95054 U.S.A.

Sun Microsystems, Inc. は、本書で説明されている製品に組み込まれているテクノロジーに関して知的所有権を有しています。特に、制限されることなく、これらの知的所有権には、米国およびその他の国における 1 つまたは複数の 米国特許または申請中の特許が含まれる場合があります。

米国政府の権利 - 商用ソフトウェア。米国政府のユーザーには、Sun Microsystems, Inc. 標準のライセンス契約、該当する FAR の条項および補足条項が適用されます。このディストリビューションには、サードパーティーによって開発されたものが含まれている可能性があります。

また、本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいている可能性があります。UNIX は、米国およびその他の国における 登録商標であり、X/Open Company, Ltd により独占的にライセンスされています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴ、Solaris のロゴ、Java Coffee Cup のロゴ、docs.sun.com、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国およびその他の国における SPARC International, Inc. の商標または登録商標であり、同社のライセンスを受けて使用されています。SPARC の商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づいています。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス保持者向けに開発したものです。Sun は、Xerox が先駆者としてコンピュータ業界においてビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念を研究および開発した功績を認めています。Sun は、Xerox Graphical User Interface について Xerox から提供された非独占的ライセンスを保持しています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装する Sun のライセンス保持者、あるいは、Sun の書面によるライセンス契約に従う Sun のライセンス保持者にも適用されます。

本出版物で説明されている製品、および記載されている情報は、米国輸出管理法によって 管理されており、その他の国の輸出法または輸入法の適用対象となる可能性があります。かかる製品および情報を、直接的、間接的にかかわらず、核兵器、ミサイル兵器、化学生物兵器、または海洋での核利用 (原子力艦など) に関連して使用することは、固く禁じられています。また、米国の輸出入禁止国、または米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止された個人のリスト、特別に指定された国籍者のリストなど) で特定された団体に輸出または再輸出することは、固く禁じられています。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性、または非侵害の暗示的な保証を含む、すべての明示的または暗示的な条件、表現、および保証については、法律の許容範囲内で、責任が問われないものとします。

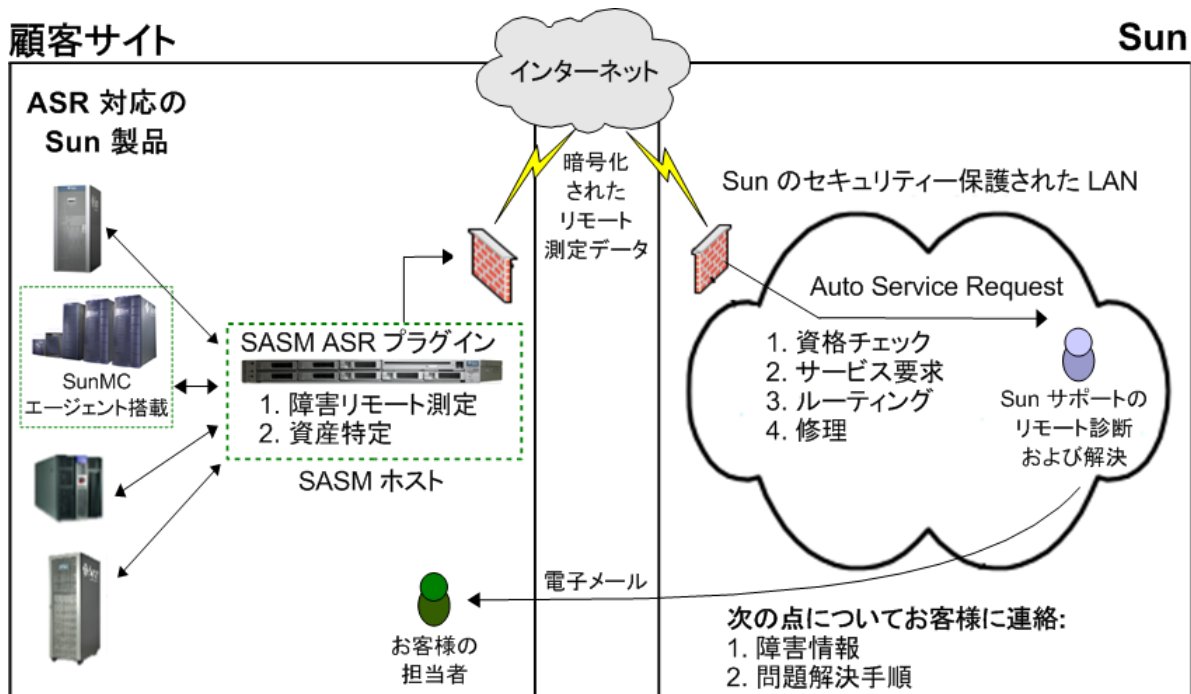
はじめに

Auto Service Request 2.4 は、Sun 製品で障害イベントリモート測定を使用してサービス要求を開始することでサポートサービスプロセスを自動化する Sun ネットワークサービス機能です。このソフトウェア基盤は、サイトで障害を検出し、分析およびサービス要求の生成を行えるように、リモート測定データを Sun にあるシステムに転送します。このソフトウェアのみからなるソリューションにより、ソフトウェアを自分でプロビジョニングし、設定して、ASR 対応製品で ASR を有効にすることができます。Auto Service Request は特定の Solaris システムに含まれており、これには保証または SunSpectrum 契約が適用されます。

Auto Service Request 基盤を構成しているすべてのシステムは、データの機密性、完全性、可用性を確保するように構築されています。Auto Service Request のセキュリティー戦略は、組織のデータが確実に保護されるように、暗号化、承認、アクセス制御、データセキュリティーの複数のレイヤーを用いて設計されています。

Auto Service Request アーキテクチャー

ASR ソリューションは、多くの相互接続されたプラットフォームおよびシステムを通じて組織に提供されます。これらは、すべてセキュリティーを重視して構築されており、徹底的な防御策を講じて複数の保護レイヤーを提供します。次に示す ASR アーキテクチャーの図は、このソリューション全体の概要を表しています。



このソリューションの主要コンポーネントは次のとおりです。

- **Sun Automated Service Manager (SASM)** — このコンポーネントは、さまざまな Sun ネットワークサービスの導入をシンプル化し、リモート測定データ転送用にセキュリティー保護された転送メカニズムを提供します。
- **SASM ASR プラグイン** — このコンポーネントは **SASM** 内にあり、ASR 対応の Sun 製品から障害イベントデータを受け取り、データを検証し、**SASM** によって提供されるセキュリティー保護された転送メカニズムを使用して **ASR** コア基盤にそのデータを送ります。
- **Auto Service Request** コアバックエンド基盤 (**Sun** のセキュリティー保護された LAN) — このコンポーネントは障害イベントデータを処理し、サービス要求情報をお客様に伝えます。

Auto Service Request コアバックエンド基盤

Auto Service Request ソリューションの中心には、**sun.com** 内でホストされているコアバックエンド基盤があります。**ASR** コア基盤は、ユーザーの検証に **Sun Online** アカウント内に保存されているユーザーアカウント資格を使用し、システムの検証にデジタル署名および暗号化されたトラフィックを使用します。**Auto Service Request** 基盤内のすべてのシステムは、エンドデバイスから受信したリモート測定メッセージとアラームの処理、認証の検索を実行するために、コア基盤にリアルタイムでアクセスできる必要があります。

コアバックエンド基盤は、**Sun** サービスによって管理および保守されているシステム、ユーザーインタフェース、データベース、**Web** サービスが組み合わさったものです。**ASR** によって保存されるすべてのデータは、マルチテナント型のセキュリティーモデルで組織ごとに分離されます。このセキュリティーは **API** ベースのアクセスおよび承認制御の複数のレイヤーによって強化されます。コア基盤内に保存されるデータには、リモート測定イベントデータ、登録データ、**ASR** 資産有効化データ (ホストの名前とシリアル番号、サービス要求データなど) が含まれます。

Auto Service Request システムのデータストアに外部から直接アクセスすることはできません。すべてのアクセス要求は、**ASR** 認証システムに対してリアルタイムで検証され、セキュリティーおよび検証の複数のレイヤーを通過した後で、データ要素へのアクセスが認められます (詳細については、次のセクション「認証基盤」を参照)。

認証基盤

Auto Service Request 基盤へのすべての要求は、システムで生成されたものであろうと、ユーザーによって手動で生成されたものであろうと、リモート測定データにアクセスするには、ビジネスロジックおよび認証チェックの複数のレイヤーを通過する必要があります。

境界ネットワークのセキュリティーを通過すると、要求はまず、システム **API** コールへの準拠のために分析されます。不適切な構文を使用している要求、形式が不適切な要求、またはペイロードが規定の限度を超えている要求は、最外部のレイヤーで即座に破棄されます。

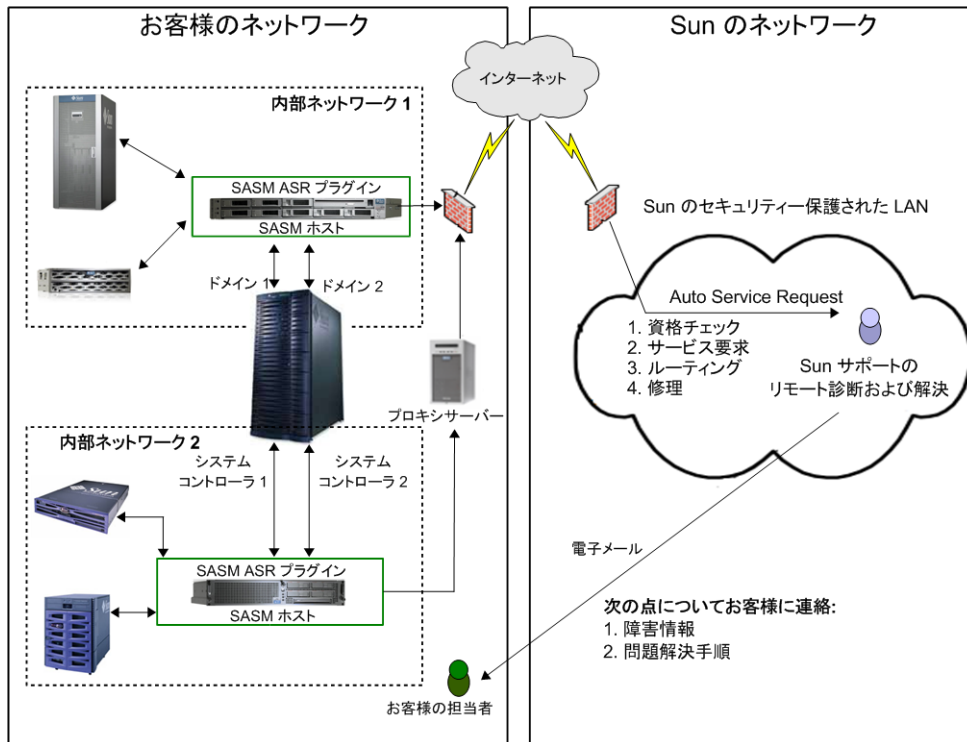
受信要求の形式が適切な場合は、有効性を判断するために、その要求に付随する認証資格が Sun Online アカントに対して即座に検証されます。資格が正しく認証されると、該当のユーザーまたはシステムが (アイデンティティにおいて認証されていますが) 送信された要求を実行するのに適切なレベルの権限を持っているかどうかを確認するために、システム内に現在ある承認モデルと比較されます。

SASM と SASM ASR プラグイン

Sun Automated Service Manager は、組織のデータセンター内において、ASR 資産からリモート測定メッセージを受信し、それらのメッセージを ASR コア基盤に提供し、受信障害イベントメッセージのゲートキーパーとして機能する Solaris 10 ソフトウェアソリューションです。

SASM では、柔軟な導入モデルがサポートされており、(規模または地理的な多様性に対応するために必要な場合は) ニーズに応じて単一の組織に複数のインスタンスを導入することもできます。SASM の初期化が完了すると、組織は Auto Service Request コア基盤にシステムを登録し、非公開または公開暗号化鍵を交換することになります。これらの 1024 ビット RSA 鍵は、メッセージの認証および否認防止を行う目的で、SASM の今後すべてのメッセージ (受信と送信の両方) に署名するのに使用されます。

SASM は、セキュリティーのコンプライアンス要件に応じて、組織内に多くの方法で導入できます (エンド顧客の DMZ 内や信頼されたネットワーク内など)。この柔軟性により、組織の環境内で受信するリモート測定データを、内部セキュリティーポリシーや必要なすべてのコンプライアンス要件に準拠させることができます。



上の図は、お客様のネットワークにおけるいくつかの ASR 導入オプションを示しています。もっともシンプルなオプションは、インターネットにアクセス可能で、すべての Sun 製品ドメインおよびシステムコントローラのネットワークインタフェースに接続できる SASM/ASR ホストを 1 つ用意することです。

必要に応じて、複数の SASM/ASR ホストを導入することもできます。たとえば、サーバーのシステムコントローラがドメインとは別のネットワーク上にある場合は、ドメインのネットワーク上に 1 つ、システムコントローラのネットワーク上に 1 つ、合計 2 つの SASM/ASR ホストを使用することができます。

SASM/ASR ホストは、直接またはプロキシを介して、インターネットに接続する必要があります。ASR 設定プロセス (「`asr register`」コマンド) では、プロキシサーバー情報 (ホスト名 /IP アドレス、必要な場合はユーザー名とパスワード) が求められます。プロキシ情報は、必要に応じて ASR 構成ファイル (`config.ini`) で変更できます。

SASM ホストから ASR 資産を有効化する際に、SASM ホストは、ポート 6481 で実行されているサービスタグ `http` リスナーを使用して、ASR 資産で実行されているサービスタグを検出し、ASR 資産のシリアル番号および生成情報を取得します。SASM ASR プラグインの主要な役割の 1 つは、(SNMP 受信側ポート 162 (`config.ini` ファイルで設定可能) を使用して) お客様のデバイスからリモート測定メッセージを受信し、それらのメッセージにリアルタイムで対応することです。SASM ASR プラグインは、リモート測定メッセージを受信すると、アラームを検証および抑制するために (SASM ホストから ASR 資産への `snmp get` コールやイベント正規化に関わる FMA イベント強化などの) 処理を実行します。リモート測定メッセージが SASM ASR プラグインを通過するときに、そのメッセージを Auto Service Request コア基盤に送信して処理する必要がある場合は、そのメッセージが XML データ構造でエンコードされ、RSA と RC4 (128 ビット) SSL 暗号化を使用して、HTTPS (ポート 443) を介して Auto Service Request コア基盤 (<https://transport.sun.com>) に送信されます。

表 1: プロトコルとポート

送信元	送信先	プロトコル	ポート	説明
SASM ホスト	ASR バックエンド (Sun)	https	443	リモート測定メッセージを ASR バックエンドに送信する場合
SASM ホスト	ASR 資産	http	6481	サービスタグリスナーで資産を有効化する場合
ASR 資産	SASM ホスト	snmp	162	リモート測定メッセージを SASM ホストに送信する場合
SASM ホスト	ASR 資産	snmp (get)	161	FMA 強化で追加の診断情報を取得する場合

監査

システム内で実行された処理について内部説明責任を果たせるように、Auto Service Request ソリューションのすべてのレベルにわたって、可能な限り多くの機能に監査機能が組み込まれています。Auto Service Request アーキテクチャーを構成するすべてのシステム (Auto Service Request コアバックエンド基盤、Sun Automated Service Manager、SASM ASR プラグイン) では、プラットフォーム内で発生したすべての処理を詳しく監査することが可能です。

ASR メッセージの例

正規の障害イベントが発生した場合に ASR プラグインが Sun に送信する XML メッセージの例を以下に示します。

ILOM X4100 の実際のトラップ

```
<message xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:noNamespaceSchemaLocation="message.xsd">
  <site-id>asrX4100</site-id>
  <host-id>asrX4100</host-id>
  <message-uuid>0x8FF90D8D3F05E887A5752362B8E63A2E</message-uuid>
  <message-time timezone="US/Mountain">2009-02-06T08:31:05</message-time>
  <system-id>12345679</system-id>
  <asset-id>12345679</asset-id>
  <product-name>X4100</product-name>
  <event>
    <primary-event-information>
      <message-id>1.3.6.1.4.1.42.2.175.103.2.0.19</message-id>
      <event-uuid>0xB7F7EEF6C020167FCE33FD1AA3C0CC45</event-uuid>
      <event-time timezone="US/Mountain">2009-02-06T08:31:05</event-time>
      <severity>NA</severity>
      <component>
        <hardware-component>
          <name>NA</name>
        </hardware-component>
      </component>
      <summary>NA</summary>
      <description>NA</description>
      <additional-information name="receiver_id">ASR-2.0</additional-information>
      <payload name="snmp" type="v2c" category="ILOM">
        <raw-event>
          <varbinding1 name=".1.3.6.1.2.1.1.3.0" type="67"><![CDATA[59831]]></
varbinding1>
          <varbinding2 name=".1.3.6.1.6.3.1.1.4.1.0"
type="6"><![CDATA[.1.3.6.1.4.1.42.2.175.103.2.0.19]]></varbinding2>
          <varbinding3 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.175.103.2.1.1.0" type="4" />
          <varbinding4 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.175.103.2.1.14.0"
type="4"><![CDATA[1762TH2-0636010618]]></varbinding4>
          <varbinding5 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.175.103.2.1.15.0" type="4" />
          <varbinding6 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.175.103.2.1.2.0" type="4"><![CDATA[/
SYS/FT0/FM0/F0/SPEED]]></varbinding6>
          <varbinding7 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.175.103.2.1.3.0"
type="2"><![CDATA[2]]></varbinding7>
```

```

    <varbinding8 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.175.103.2.1.4.0"
type="4"><![CDATA[3000.000000]]></varbinding8>
    <varbinding9 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.175.103.2.1.5.0"
type="4"><![CDATA[2000.000000]]></varbinding9>
    <varbinding10 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.175.103.2.1.9.0" type="4"><![CDATA[Lower
Non-recoverable going low]]></varbinding10>
    <varbinding11 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.175.103.2.1.10.0"
type="6"><![CDATA[.1.3.6.1.2.1.47.1.1.1.1.2.12]]></varbinding11>
    <varbinding12 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.175.103.2.1.13.0"
type="2"><![CDATA[2]]></varbinding12>
    </raw-event>
  </payload>
</primary-event-information>
</event>
</message>

```

FMA イベント

```

<message xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:noNamespaceSchemaLocation="message.xsd">
  <site-id>HOSTID1</site-id>
  <host-id>HOSTID1</host-id>
  <message-uuid>0x8A73E36AABA7A9D828FA915E68EB576E</message-uuid>
  <message-time timezone="Pacific Standard Time">2008-05-15T22:39:46</message-time>
  <system-id>ASSETSERIAL1</system-id>
  <asset-id>ASSETSERIAL1</asset-id>
  <product-name>T5240</product-name>
  <event>
    <primary-event-information>
      <message-id>SUN4V-8000-E2</message-id>
      <event-uuid>c4dc3f01-820f-6f55-bd23-e157ab53cf21</event-uuid>
      <event-time timezone="Pacific Standard Time">2008-05-15T22:39:46</event-time>
      <severity>Critical</severity>
      <component>
        <hardware-component>
          <name>MEMORY</name>
        </hardware-component>
      </component>
      <summary>Uncorrectable memory error</summary>
      <description>One or more uncorrectable memory errors occurred.</description>
      <knowledge-link>http://sun.com/msg/SUN4V-8000-E2</knowledge-link>
      <payload name="snmp" type="v2c">
        <raw-event>
          <varbinding1 name=".1.3.6.1.2.1.1.3.0" type="67"><![CDATA[37840012]]></
varbinding1>
          <varbinding2 name=".1.3.6.1.6.3.1.1.4.1.0"
type="6"><![CDATA[.1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.7.0.1]]></varbinding2>
          <varbinding3 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.1.1.2" type="4"><![CDATA[c4dc3f01-
820f-6f55-bd23-e157ab53cf21]]></varbinding3>
          <varbinding4 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.1.1.3" type="4"><![CDATA[SUN4V-8000-
E2]]></varbinding4>
          <varbinding5 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.1.1.4" type="4"><![CDATA[http://
sun.com/msg/SUN4V-8000-E2]]></varbinding5>
          <varbinding6 name=".1.3.6.1.6.3.18.1.3.0" type="4"><![CDATA[1.2.3.4]]></
varbinding6>

```



```

    <varbinding7 name=".1.3.6.1.6.3.18.1.4.0" type="4"><![CDATA[public]]></
varbinding7>
    <varbinding8
name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.1.1.5.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56.50.48.102.45
.54.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49"
type="4"><![CDATA[cmd:///module/cpumem-diagnosis]]></varbinding8>
    <varbinding9
name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.1.1.6.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56.50.48.102.45
.54.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49"
type="4"><![CDATA[Sat May 10 10:22:31 PDT 2008]]></varbinding9>
    <varbinding10
name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.1.1.7.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56.50.48.102.45
.54.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49"
type="66"><![CDATA[2]]></varbinding10>

<varbinding11name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.2.1.4.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56
.50.48.102.45.54.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49
.1"
type="4"><![CDATA[fault.memory.bank]]></varbinding11>
    <varbinding12
name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.2.1.5.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56.50.48.102.45
.54.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49.1"
type="66"><![CDATA[95]]></varbinding12>
    <varbinding13
name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.2.1.6.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56.50.48.102.45
.54.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49.1"
type="4"><![CDATA[mem:///unum=MB/CMP0/BR0:CH1/D0/J0700]]></varbinding13>
    <varbinding14
name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.2.1.7.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56.50.48.102.45
.54.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49.1"
type="4"><![CDATA[hc://:product-id=SUNW,T5240:chassis-id=0723BBC006:server-
id=wgs48-53:serial=d8181439//motherboard=0/chip=0/branch=0/dram-channel=1/
dimm=0]]></varbinding14>
    <varbinding15
name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.2.1.8.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56.50.48.102.45
.54.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49.1"
type="4"><![CDATA[-]]></varbinding15>
    <varbinding16
name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.2.1.4.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56.50.48.102.45
.54.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49.2"
type="4"><![CDATA[fault.memory.bank]]></varbinding16>
    <varbinding17
name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.2.1.5.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56.50.48.102.45
.54.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49.2"
type="66"><![CDATA[95]]></varbinding17>
    <varbinding18
name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.2.1.6.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56.50.48.102.45
.54.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49.2"
type="4"><![CDATA[mem:///unum=MB/CMP0/BR0:CH0/D0/J0500]]></varbinding18>
    <varbinding19
name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.2.1.7.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56.50.48.102.45
.54.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49.2"
type="4"><![CDATA[hc://:product-id=SUNW,T5240:chassis-id=0723BBC006:server-
id=wgs48-53:serial=d81813ce//motherboard=0/chip=0/branch=0/dram-channel=0/
dimm=0]]></varbinding19>

```

```

    <varbinding20
name=".1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.2.1.8.36.99.52.100.99.51.102.48.49.45.56.50.48.102.45.54
.102.53.53.45.98.100.50.51.45.101.49.53.55.97.98.53.51.99.102.50.49.2"
    type="4"><![CDATA[-]]></varbinding20>
    </raw-event>
  </payload>
</primary-event-information>
</event>
</message>

```

SunMC V2C イベント

```

message xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:noNamespaceSchemaLocation="message.xsd">
  <site-id>HOSTID1</site-id>
  <host-id>HOSTID1</host-id>
  <message-uuid>0x496D5C99F2C2B9BEA502257D49209A42</message-uuid>
  <message-time timezone="Pacific Standard Time">2008-05-15T22:43:11</message-time>
  <system-id>ASSETSERIAL1</system-id>
  <asset-id>ASSETSERIAL1</asset-id>
  <product-name>unknown</product-name>
  <event>
    <primary-event-information>
      <message-id>1.3.6.1.4.1.42.2.85.1.3</message-id>
      <event-uuid>0xF74761E0A80BBCC3D229B99A7C70561D</event-uuid>
      <event-time timezone="Pacific Standard Time">2008-05-15T22:43:11</event-time>
      <severity>Major</severity>
      <component>
        <hardware-component>
          <name>MONITORING</name>
        </hardware-component>
      </component>
      <summary>Monitoring service 100 appears to be unavailable or disabled</summary>
      <description>mod/pdsm/availability</description>
      <payload name="snmp" type="v2c">
        <raw-event>
          <varbinding1 name=".1.3.6.1.2.1.1.3.0" type="67"><![CDATA[37840012]]></
varbinding1>
          <varbinding2 name=".1.3.6.1.6.3.1.1.4.1.0"
type="6"><![CDATA[.1.3.6.1.4.1.42.2.195.1.7.0.1]]></varbinding2>
          <varbinding3 name=".3.1.1.1.2" type="6"><![CDATA[.1.3.6.1.4.1.42.2.85.1.3]]></
varbinding3>
          <varbinding4 name=".1.3.6.1.4.1.42.2.12.2.1.2.2.1.8.0"
type="4"><![CDATA[1.3.6.1.4.1.42.2.12.2.2.1.1.10.2.1.1.1.6.8.102.97.110.45.117.110.105
.116.7.70.84.48.47.70.77.48:100:error:rOperationalStatus::Error]]></varbinding4>
          <varbinding5 name=".1.3.6.1.6.3.18.1.3.0" type="4"><![CDATA[1.2.3.4]]></
varbinding5>
          <varbinding6 name=".1.3.6.1.6.3.18.1.4.0" type="4"><![CDATA[public]]></
varbinding6>
        </raw-event>
      </payload>
    </primary-event-information>
  </event>
</message>

```